

鳥取・中海

tottori

鳥取総局
TEL0857(39)1188

米子総局
TEL0859(34)5211

境港支局
TEL0859(42)3529

「米子モデル」を全国へ

高齢者が要支援・介護になる一歩手前の「フレイル」をいかに防ぐか。医療、介護関連システムを手掛けるコロンパス(米子市西福原4丁目)が、フレイル評価システムを開発し、県内外の自治体で導入が進む。人生100年時代といわれる中、増田紳哉社長(69)は「健康寿命を延ばすためには効率的に個人の状態を把握し、個々に合った対策を打つことが必要」と説く。

挑む

コロナ時代を見据えて

@鳥取

フレイル評価システムのコロンパス

増田 紳哉社長



また、しんや 倉吉市出身。鹿児島大学水産学部水産学研究所修了。1979年、水産技師として鳥取県庁入りし、県境港水産事務所長、県水産試験場長などを歴任し2012年に退職。鳥取大医学部を経て17年にグループ会社のエッグに入社、19年から現職。

■即座に3段階判定
評価システムは、高齢者がタブレット端末を使い「階段を手すりや壁をつた」で、フレイルの「疑いあり」「一歩手前」「可能性は低い」の3段階で判定する。判定結果から優先度が高い対象者を抽出し、介護予防指導や運動処方などに生かす。

開発には鳥取大医学部コンピュータとして地元企業との医工連携を橋渡しした経験が生きた。健診業務を担う自治体関係者の声を詳細に聞き取り、開発現場に反映。「専門家だけでなくも扱える、分かりやすいシステムに仕上げることを心掛けた」と、これまでに山陰両県や兵庫県の計8自治体が採用した。

■高齢者の意識変化
分かりやすさは、判定を受ける高齢者の意識も変えつつある。判定とともに運動の必要性や栄養状態、うつなどの状況を点数化したことで「ひとつひとつではなく、自分のこととして受け止めてもらいやすくなった」と

分析する。システムを使った米子市永江地区での予防事業では、判定された高齢者530人のうち、約半数がフレイルやその予備軍だった。運動や食事を指導するフレイル対策教室への参加は個人の判断だが、判定結果を仲間内で見せ合い、誘いあって出掛ける高齢者もいたという。

新型コロナウイルスを背景にした外出を控える動きに加えて、新型コロナウイルスを抑え込んだ先にも、健康寿命を延ばすフレイル予防の重要性は増す。

厚生労働省が本年度から75歳以上にフレイル健診を導入したことを受け、県内外の市町村にシステムと対策教室を組み合わせた「米子モデル」を提案する。「米子から全国へ取り組みを広げたい」と意気込んでいる。

(米子総局報道部・田淵浩平)

＝随時掲載＝